

志位和夫氏の提言「東アジアの平和構築への提言—ASEANと協力して—」2024/4/17 要約

(「しんぶん赤旗」2024年4月19日付)

志位和夫氏（日本共産党議長）の提言は、三つの提言で構成。第一は、ASEAN（東南アジア諸国連合）と協力して東アジア規模での平和の地域協力の枠組みを発展させる。第二は、北東アジアの諸問題の外交的解決をはかり、東アジア平和共同体をめざす。第三は、ガザ危機とウクライナ侵略—国連憲章・国際法にもとづく解決を、と。

東南アジアと比べて北東アジアには特別な困難があると指摘—対話の枠組みがない、朝鮮半島での戦争状態が終結していない、日本の過去の侵略戦争と植民地支配に対する反省の欠如という歴史問題などが存在する、と。

日中関係の諸問題や台湾問題の解決策を述べたあと、朝鮮半島問題の解決をいかにして「対話による平和的解決」への転換をはかるかを語った。2005年の「6カ国協議」の共同声明が確認している「6者は『約束対約束、行動対行動』の原則に従い、・・・意見が一致した事項についてこれらを段階的に実施していく」ことは重要。「6カ国協議」は、2007年の第6回会合以降開かれていませんが、この多国間の枠組みは、問題解決のうえで最も合理的な枠組みで有り、国連安保理決議もその重要性を指摘している。日本共産党は2014年の第26回党大会で「北東アジア平和協力構想」を提唱し、包括的な平和の枠組みを北東アジアにも構築することを呼びかけて以降、2024年1月の党大会でもその重要性を強調している。

志位さんは、今ある東南アジアを中核とした友好協力条約と北東アジアの友好協力条約が結びついて東アジアの平和共同体が誕生する、と。